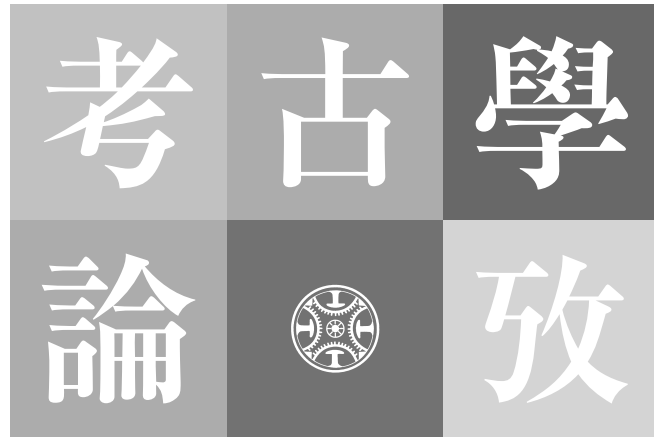


橿原考古学研究所紀要



————— 第 4 6 冊 —————
2023

序

昭和13年9月13日、橿原遺跡の発掘調査を契機に末永雅雄初代所長によって創立された橿原考古学研究所は、本年85周年を迎えます。この間、奈良県の遺跡のみにとどまらずシリアやイタリヤなど海外の遺跡の発掘調査にも積極的に関わり、グローバルな視点で人類の過去の営為を解明してまいりました。

所員の研究成果発表の場の一つである橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』は昭和26年に創刊され、これまでに学界を牽引する多くの論考を掲載してきました。こうした研究の積み上げこそが、橿原考古学研究所の力の源となっており、本冊は第46冊となります。

本冊には4本の論考を収録しました。1本目は、室宮山古墳の石製品を今日的な研究水準により再検討したものです。こうした過去の資料の再検証は、新たな研究視点の提示にもつながる重要な作業となります。2本目は、これまで孝徳天皇の長柄豊碕宮とされてきた前期難波宮の構造を再検討し、それらを天武朝期の成立と位置づけるとともに、その下層遺構こそが長柄豊碕宮であると指摘しました。3本目は、東大寺龍松院から出土した鎌倉時代の瓦を分析したものです。奈良時代のみならず中世の瓦を検討することも、東大寺の歴史を考える上で重要となります。4本目は、大和郡山城二ノ丸の金箔瓦の製作年代を明らかにしました。今後、17世紀以前の豊臣期と17世紀以降の水野・松平期の2時期にわたって金箔瓦が作られた歴史的背景の解明が期待されます。

新型コロナウイルス感染症が未だ社会に大きな影を落としています。これまでも幾多の未知のウイルスに打ち勝ってきた人類の足跡を私たちの調査・研究が明らかにし、今後の人類の歩みの参考となるような歴史像を構築していきたいと考えております。

令和5年3月15日

奈良県立橿原考古学研究所
所長 青柳 正規

目次

序

青柳正規

- 室宮山古墳の石製品・玉類 北山峰生 ... 1
- 前期難波宮孝徳朝説批判（その2） 泉 武 ...23
- 東大寺龍松院出土の剣頭文・巴文軒平瓦について 藤元正太 ...47
- 大和郡山城出土の金箔瓦について 岡田雅彦 ...61

奈良県立橿原考古学研究所紀要

考古学論攷 第46冊

令和5年3月15日 発行

発行 奈良県立橿原考古学研究所

奈良県橿原市畝傍町1番地

印刷 株式会社明新社

奈良県奈良市南京終町3丁目464

ISSN 0287-9271